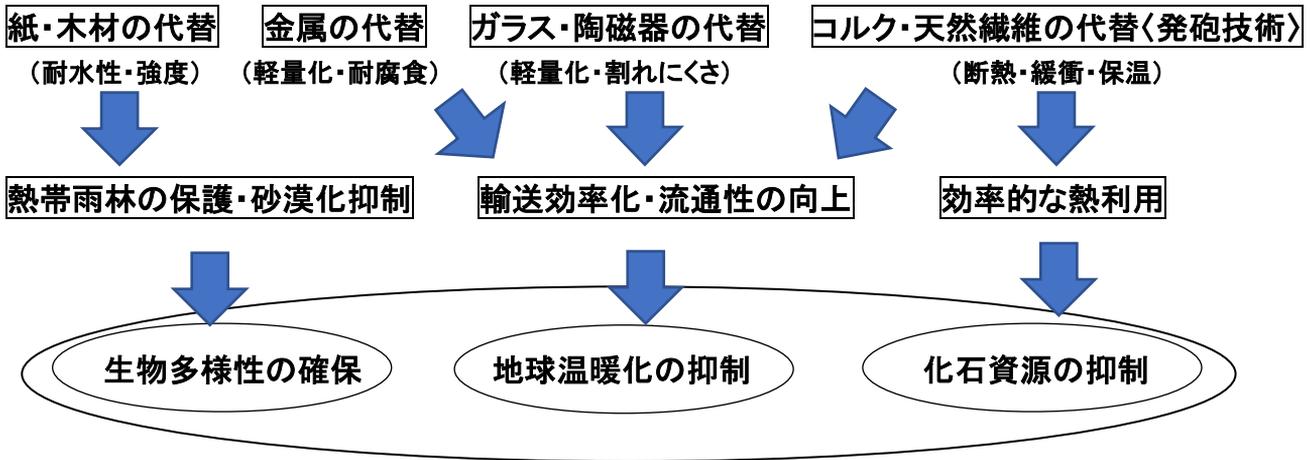


プラスチック(樹脂)は地球環境悪化の原因なの？

地球環境に学ぶサークル 尼田 康

【表. プラスチックの利点】



過去、プラスチックは100年弱の歴史で、木材、紙、金属、ガラス、天然コルク等の一部を代替してきました。低熱量で熔融し、加工も簡単で、様々な形に成形・加工が出来る特徴から、私達の生活に欠かせない存在になっています。そのため、現在では、かなりの量のプラスチックで自動車、弱電等の部品やあらゆる雑貨品が製品化されています。その結果、不要になったプラスチック製品も増えています。プラスチック(ポリエチレン・ポリプロピレン・PET・ナイロン等)は腐らない素材です。これは長所でもあり、欠点でもあります。

現在、地球環境問題(マイクロプラスチック問題、CO₂問題等)に対して、化石燃料の軽減策としてプラスチックの使用減を掲げ、対応を検討している行政や企業が多くなってきています。素材全て(金属、木材、ガラス、プラスチック等)に共通して言えますが、不要物としてポイ捨てを行うと【不要ごみ】となり、地球環境を悪くします。

以前は、プラスチック製品をひとくくりで廃棄処分していました。回収ができなかった【プラスチックごみ】は、地球上にいわゆる【一般ごみ】となって捨てられ、海に流されたプラスチックは、紫外線による劣化や波の作用などにより破碎されマイクロ化して漂流し、魚はえさと間違えて食べ体内に蓄積され、生態系を壊しているのが現状です。

また、異種プラスチックの複合化技術等で、要求品質に対応できる製品化や、プラスチックに直接印刷された製品がコスト面からも主流だったために、廃棄されたプラスチックは、回収が難しく、焼却処分しか方法がありませんでした。

最近では、ペットボトルはラベルと本体との分離、自動車の内装材や弱電部材でもリサイクルを考慮した分離・剥離が容易に出来る積層技術組み立て・貼り合わせ技術の進歩で、各企業で回収可能な製品化が進められています。

従って、私達は、今後の地球環境保護を考えた場合、プラスチックの特性や加工方法を理解して廃棄方法を考えなければなりません。金属や紙も同様に、異種素材との貼り合わせをしたのでは、プラスチック同様に【燃えないごみ】扱いとなります。回収しても再利用は出来ません。多くのプラスチックを廃棄する前に先ず【分別】を考え、回収することこそが今出来る最善の策であり、プラスチックと共生でき、地球環境対応を考える策と考えます。そのためには、プラスチックの種類や特徴を理解した上で、廃棄・分別できる知識を持つことが重要です。今後の環境を考える上で、私達は【分別】を徹底し、廃プラを再利用・再加工できる様に努めなければなりません。